武能岳西尾根

2009.4.11~12

メンバー：L 菊地（記）、橋立

4月11日（晴れ）

土樽から魚野川沿いの道には全く雪は無く、見上げる稜線の雪も少なそうで雪洞が掘れるだろうか心配になる。もしもの時はイグルーか！万太郎谷

を見送り、未舗装の道に入ると次第に足元に雪が出て来る。尾根末端に取り付くには蓬沢を対岸に渡らなくてはならないが、当然スノーブリッジなど無く飛び石で渡った。渡ったのも束の間で、リッジ通しには雪は無く藪漕ぎを覚悟したが、歩いてみると獣道程度の踏み跡があり、それ程困難と言う程ではなかったがスキーを背負って来なくて良かった。2時間程でようやくお情け程度だが雪の上を歩くようになる。尾根も痩せ尾根から広い斜面状となり滑ったら気持ち良さそうだ。

幕営予定の１４００m付近から再び尾根は痩せて来る。まだ時間が早いので主稜線まで抜けても良いが、今回は雪洞を掘るのも半分目的なので、手ごろな雪庇に雪洞を掘る。低木が出るぎりぎりまで掘り、2人快適に泊まれるスペースを確保する。今夜の宿は完成したが、まだ日が高く暖かいので外でお酒など呑みながら景色を眺めて過ごした。

4月12日（晴れ）

雪洞を後に、歩き出すとようやく雪稜らしくなってきた。雪が締っていて歩きやすいが、あちこち大きなクレパスが開いている。雪が安定しているので、ナイフリッジの通過も全く問題無いが、練習がてらコンテにしたりスタカットに切り替えたりしながらザイルを出す。ナイフリッジを抜けると尾根は武能岳の稜線へと吸収され雪も無くなり、あっけなく登山道へ出る。

雪の殆ど無い夏道を僅かに行くと、武能岳山頂。これから行く茂倉岳はどっしりとしていて近そうで遠いい。一旦笹平まで高度を下げて、再び登りが続く。雪に覆われた登山道は下が空洞になっていたりで踏み抜き易く、無駄に体力を消耗する。手前の偽ピークを通過し一登りで茂倉岳山頂。芝倉沢上部からはスキーヤ達が気持ち良さそうに滑り降りて行く。

穏やかな天気の中、主稜線からの眺めを楽しんだ後、茂倉新道を降り始める。稜線にいつの物だろうか古そうな踏み跡が残っていたが、足を乗せるとやたら踏み抜き、トレースを外して歩く。スキーで滑ればわけなさそうだが、踏み抜きながらの歩きだと、なおさら長い距離に感じる。矢場の頭を過ぎると次第に残雪も減り、快適とは言えないプラ靴での痩せた夏道歩きになっていくが、丁度、関越トンネルの上を通る辺りは再び広い雪の斜面となりパウダーの時期に滑ったら楽しそうだ。意外と時間はかかったが、ようやく土樽パーキング沿いの道に出て川沿いの道を歩くが、行きに通った朝に比べると、水量が格段に増えていた。

コースタイム：
11日　土樽駅7：05～西尾根末端7：50・8：20～1200m付近10：10・10：30～1430m付近11：15
12日　1430m付近7：00～1700mピーク8：55・9：25～武能岳9：40・9：55～笹平10：20～12：30・13：00～矢場の頭14：10・14：25～登山口16：30～土樽駅17：00
地形図：土樽、茂倉岳